

# 8月のクリスマス

2005(平成17)年7月28日鑑賞(ヘラルド試写室)



監督・脚本=長崎俊一/出演=山崎まさよし/関めぐみ/井川比佐志/西田尚美/大倉孝二  
/戸田菜穂(東芝エンタテインメント配給/2005年日本映画/103分)

……昔は黒澤作品、最近はホラー映画が外国でリメイクされる日本映画の代表。しかしこれは、逆に『シュリ』(99年)と並んで韓流ブームの火付け役となった『八月のクリスマス』(98年)を日本版にリメイクしたもの。それは一体なぜ……? ストーリーはほとんど共通だが、違うのは写真屋の店主に対して、生きる意欲とともに死んでいくことへの恐怖感を意識させることになった、ハツラツとした美女の職業! さて、その違いの結果は……? そしてまた、韓国を代表する名優ハン・ソッキュと対比される日本を代表するミュージシャン山崎まさよしの主演男優としての出来は……?

## なぜ今韓流のリメイク……?

この日本版『8月のクリスマス』は、ホ・ジノ監督のデビュー作となった韓国版『八月のクリスマス』(98年)のリメイク版。死期を悟った写真館の店主を演ずるハン・ソッキュと駐車取り締まりの女性交通取締官を演ずるシム・ウナとの切ない恋物語は、そのすばらしいタイトルと相まって大ヒットし、『シュリ』(99年)とともに韓流ブームの火付け役となった。もっとも私がこれを観たのはずっと遅れて2004年12月11日だったが、なぜ今、この韓国版『八月のクリスマス』を日本でリメイク……?

## 山崎まさよしとハン・ソッキュ

ハン・ソッキュは韓国を代表する名優だが、それと同じ役を演じた山崎まさよしの本業は言うまでもなくミュージシャン。もっとも、私はこの映画を観てパン

フレットを読むまでは知らなかったが、山崎まさよしは1997年に『月とキャベツ』に主演し、その主題歌『One more time, One more chance』が大ヒットしたとのこと。長崎俊一監督が、韓国を代表する名優ハン・ソッキュが主演し、日本でも大ヒットしたこの『八月のクリスマス』に、映画の主演2作目にしかならない山崎まさよしを起用したのは、一体なぜ……？ また、山崎まさよしもハン・ソッキュと比較されることが当然予測されるにもかかわらず、あえてその出演をOKしたのはなぜ……？

それはパンフレットには何も書かれていないが、私が思うに……？

ハン・ソッキュは1964年生まれに対し、山崎まさよしは1971年生まれ。その年の差は7歳。またハン・ソッキュはメガネをかけて演じていたのに対し、山崎まさよしはメガネなし。その他、この2人の比較は……？

### 関めぐみとシム・ウナ

いつも自分をやさしく包んでくれる写真館の店主に対して心を開いていく若い女性役は、韓国版はシム・ウナであったのに対し、日本版は関めぐみ。この関めぐみは、私の故郷、松山を舞台としてつくられた『恋は五・七・五!』(05年)での主演に続く主演第2作目とのこと。さらに、これも松山を舞台にした『がんばっていきまっしょい』(05年)のテレビドラマでも主人公のライバル役として登場しているとのこと。映画に出演する前は、「爽健美茶・緑茶ブレンド」や「コーサー・WHITIST」のCMで話題になった美女らしいが、この映画でのえらく固苦しい(?) 臨時教師の役柄では残念ながらその美女ぶりはもうひとつ……？ もっとも、髪を下ろした最後のシーンでは、やはりこれは超美人と思えたが……？

### 職業はやはり韓国版の方が

写真館の店主にほのかな恋心を抱く若い女性の職業は、日本版では臨時教員だが、韓国版では駐車違反の取り締まりをする女性交通取締官。日本以上にクソ暑いソウルの夏の日差しの中、駐車違反取り締まりのため日々任務に従事していた彼女がこの写真館に入り、急いで写真の現像を頼んだのは、その仕事のため。し

たがって、急ぎの現像を頼むについては、私が若い頃、ある女優が「ヌードになるにはその必然性がなければ……？」などと言っていたのと同様の「必然性」があった。しかし、この日本版では急ぎの現像を頼む必然性は……？

先に韓国版を観ているからかもしれないが、やはりこの若い女性の職業は駐車違反取り締まりの女性交通取締官の方がピッタリでは……？

### この映画の舞台は？

韓国版ではどのまちが舞台となったのか私にはわからなかったが、日本版でメイクするについては、その舞台をどこにするのがまず問題となったはず。東京や大阪ではこの物語のストーリーにそもそも合わないし、京都や奈良・鎌倉などの古都とも違う。どう見ても地方の中堅都市というイメージだが、そうであれば日本にはその候補地は山ほどある。北海道までいくとちょっと辺鄙すぎる(?)が、私の故郷松山でもピッタリ。しかし残念ながら松山では美しい雪のシーンの演出がちょっと難しい……？

そこで選ばれたのは、富山県の高岡市。私も若い頃に弁護士としての仕事で、3回行ったことがあるが、金沢ほどの大都会ではなく、なるほどちょうどこの映画の舞台にはピッタリ……。

### 「死」と向かい合うことの重み……？

この『8月のクリスマス』という映画のテーマは、「死」と向かい合うことの重み。山崎まさよし演ずる主人公の鈴木寿俊は、鈴木写真スタジオのオーナー。写真に刻み込まれた美しい思い出の1コマ1コマをお客さんに提供できるこの仕事を寿俊は心から楽しんでいた。

そして既に稼業から引退している父雅俊（井川比佐志）と2人で生活しながら、自分の「病気」を率直に受け入れ、いずれ訪れてくる「死」とも真正面から向かい合っていた。そして、こんな男だけの2人暮らしを心配して時々やってくるのが妹の純子（西田尚美）。

何の気負いもなく、そんなごく普通の日常生活をくり返していくことが、寿俊にとっては大切な宝モノだったが……。

## 面白い2人の出会い！

寿俊と由紀子との最初の出会いは、韓国版では駐車違反を取り締まる交通取締官がその仕事の必要上写真館に駆け込むことだったが、この日本版では、臨時教員の高橋由紀子（関めぐみ）が生徒たちに配布する写真の急ぎの現像を頼むため。しかし前述のように、その急ぎの必要性には大きな違いが……。そして、急ぎの現像だからこの女性は外で待っているわけだが、ひと区切りついた店主がこの女性に缶ジュースを持っていき、この女性がこれをグッと飲む、飲みっぷりの良さから2人の交流が……？

## 主人公の苦悩が生まれたのはなぜ……？

寿俊と由紀子との間には、写真館の店主と写真の現像を依頼する客というつながり以外に何もあるはずがない。しかしそれでも由紀子は、折にふれてブラッとこの写真館を訪れ、若い女性らしく(?)遠慮のない言葉や直接的な質問を次々と……？

これに多少とまどいながらも、ありふれた日常生活のみに埋没していた寿俊には、逆にこれが新鮮でまぶしいものに思えたのも当然。そんな2人は次第に少しずつ淡い恋心を……？

この『8月のクリスマス』がすばらしいのは、今どきどこにでもあるような恋愛ドラマとせず、一定のキョリをおいたままの2人を静かに見守っていること。しかし由紀子と出会い、たわいのない会話をかわし、そしてちょっとしたデートを楽しむ(?)中、それまでは自分の死を静かに受け入れていたつमोरの寿俊には、生きたいという欲求が……。するとそこから生まれるのは、「なぜ俺はこんな若さで死ななければならないのだ！」という苦悩。

この『8月のクリスマス』という映画の第2のすばらしさは、そんな主人公の姿をちょっとした物語やいくつかのシーンをつなぎあわせることによって淡々と描いていること。

寿俊の死亡後、由紀子に届くラブレター(?)には短いながらそんな寿俊の想いがタツプりと……？

## 故郷の親友や同級生たちの良さもタップリと……

パスポート用の写真をとりに来た親友の宮田亮二（大倉孝二）は寿俊に対して、「何だ、この顔は！」と文句……？ それに対して寿俊は「そりゃ、実物が悪いからだヨ」とは言わず、思わず吹き出したうえで再度の写真撮影。そんな時、亮二が寿俊に対してもちだしたのは見合い話だったが寿俊は……？

故郷でともに暮らす親友はホントにいいもの。亮二はこんな「いい奴」だから、病状の悪化を告げられた寿俊が、ある日久しぶりに2人で酒を飲み交わした後エラク荒れた時も、その心の内をすべてお見通し……？ こんな男同士の友情や同級生たちと過ごす時間の楽しさをこの映画はしっかりと描いているので、それにも注目してもらいたいものだ。

## 心をうたれる寿俊のやさしさの数々……

自分の死期を悟った寿俊は、1度は親友の亮二と一緒に暴れた(?)が、それ以外はいつもやさしく周りの人たちと接していた。寿俊の温かい心づかいが伝わってくるそのひとつが、自分の死後家に1人で残されることになる父親への愛情の表し方だが、それは映画を観てのお楽しみに……。

また家族そろって記念写真を撮りに来た後、おばあちゃんだけが再度1人やってきた時の寿俊のやさしさにも要注目！ さらに、寿俊の由紀子に対するやさしさはこの映画全般に流れるものだが、笑顔の由紀子が写った1枚の写真が最後に大きな印象を残すことに……。

韓国版と全く同じストーリーを踏襲しているため、すべてのストーリー展開はミエミエなのだが、それでもやはりいいものはいい……？ あなたも、この寿俊が見せる数々のやさしさに心をうたれるはず……？

2005(平成17)年7月29日記